

## 経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例 (平成24年度)

平成24年度の経営協議会において、学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例は下記のとおりである。

### 記

1 寄付金を含め、自主財源を増やすほど実体的な経営の自主性が保たれるという方法をいかに確立するかが非常に重要である。(平成24年6月28日 第41回経営協議会)

#### ○ 藝大基金の設置

本学の長期的・安定的な財政基盤を整備し、さらなる教育研究活動や社会連携活動の一層の発展のため各種のプロジェクトを推進し、もって我が国における芸術文化の振興等に資するため、創立125周年(平成24年10月4日)を契機として「東京芸術大学基金(藝大基金)」を設置した。

設置年度においては、外部コンサルティング会社と連携しつつ、藝大基金に係るリーフレットやWebサイト、Web決済などの基盤整備及び寄附戦略構想を中心に寄附募集プロジェクトを展開した。

2 東日本大震災の発生により、文化財の破損などが問題となっているが、文化財保護について藝大を中心に輪を広げ、日本の文化を守り、地域の活性化、修復者の地位・評価の向上なども図る活動を広げてほしい。(平成24年6月28日 第41回経営協議会)

#### ○ 国際チャリティー企画「アジアの芸術系大学教員有志による被災地復興支援・文化財救援作品展(陶器皿)」の開催

「藝大アーツ・サミット2012」の開催(平成24年10月10日)に際して、協定校の学長等のご寄附による国際チャリティー企画「アジアの芸術系大学教員有志による被災地復興支援・文化財救援作品展(陶器皿)」を本学藝大アートプラザにおいて開催し、収益は義援金として、東日本大震災で被災した文化財の救援と修復を支援するための基金に寄附した。

4 グローバルな人材の育成には、若い人が他の国の自然風土に触れることが大切である。(平成24年10月25日 第42回経営協議会)

#### ○ 日中韓アニメーション国際共同制作

大学院映像研究科アニメーション専攻では、制作の過程を共有することで、学生同士の交

流を深め、国際的視野を広めること、アニメーションの教育方法等の比較分析等を行い教育情報の共有化を図ること、さらには、日中間のアニメーション分野の人的ネットワーク形成を目的として、本学、韓国芸術総合学校映像院、中国伝媒大学の学生によるアニメーションの共同制作を実施した。

このプロジェクトは、日中韓の学生・教員が韓国芸術総合学校に一堂に会し、双方の教員による「プレゼンテーション」や「講評会」などのチェックプロセスを経て、各グループ（各学校1名の3名で構成）において短編アニメーション（1分間程度）を企画・制作した。

なお、映像研究科では、国際的に活躍できる人材育成を教育理念の一つに掲げており、韓国芸術アカデミーとの映画日韓共同制作やフランス国立映画学校（フェミス）との交流ワークショップを継続的に実施している。

#### ○ 美術英語クラス「油画学生のための英語（GAP）」の実施

美術学部絵画科油画専攻では、正課の授業ではないが、外国人留学生のTAにおいて、国際的なアーティストの第一歩として美術英語クラス「油画学生のための英語（GAP）」を開講しており、その内容は、アートによく使われる単語や、表現、言い回しなどと一緒に、自分の作品も英語で説明できるようにするため、主にプレゼンテーションを中心とした表現方法を学んでいる。